

特集

生協の事業継続と それを支える職員を守る 安全衛生管理

生協は新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言下でも、生活を支えるインフラとして事業を継続しています。事業の執行において、人は貴重な資産です。コロナ禍において少しでも安全に働くことができる職場環境を整備することは、職員の定着やモチベーションの向上につながります。店舗や宅配の現場で、コロナ禍における非接触の組合員対応や安全衛生管理の徹底で働きやすい職場環境を目指す事例をご紹介します。



P.5

京都生協

来店の分散化の施策と
組合員対応の工夫



P.8

コープぎふ

宅配作業手順の改善と
非接触コミュニケーションの
強化で職員の健康を守る



P.10

(株)シーエックスカーゴ

徹底した安全衛生管理で
生協の物流を支え続ける

徹底した安全衛生管理で 生協の物流を支え続ける

生協事業における物流を支える、株式会社シーエックスカーゴは、在庫管理や運送業務の中で、さまざまな安全衛生管理を日々徹底している。また2020年度から、新型コロナウイルス（以下、コロナ）感染防止対策にも力を入れている。本社に併設される桶川流通センターの取り組みを取材した。



点呼時、ドライバーはアルコールチェッカーを使用。コロナ感染防止対策のために、個々の専用のフィルターに付け替えて使用している。

全国18の物流センターで 安全衛生委員会を設置

株式会社シーエックスカーゴは、生協の物流を担う日本生協連の関連会社だ。全国に18の物流センターと6営業所を構え、日本全国の生協の宅配センターや店舗などに日々、商品を配送している。

コロナ禍の巣ごもり需要の影響により、倉庫内の在庫量やトラックによる配送量が増加した中で事業継続と社員の安全衛生管理の両立に努めている。本社に併設されている桶川流通センター（埼玉県桶川市）に伺い、安全対策の取り組みを教えてください。

管理本部 総務部 総務課 安全衛生グループ 主任の北原克巳^{※1}さんは「桶川流通センターでは、『桶川安全衛生委員会』を設置し、安全管理者^{※2}3人、



管理本部 総務部 総務課
安全衛生グループ 主任
北原克巳さん

衛生管理者^{※2}3人を配置しています。月1回委員会を開催し、庫内の環境改善や社員の健康、労務、事故が起こった際などの対策を練っています。さらに現場巡回を行い、フォークリフトや歩行の動線など、安全な状況が守られているのか確認をしています」と話す。

同様に、全国の物流センターにも安全衛生委員会が設置され、各センターで安全対策のミーティングを実施している。安全対策の大きな枠組みは本社の安全衛生事務局で決められ、具体的な実践方法については、各センターの実態に合わせて決めていくという。ま

た、各現場では日々の安全対策を試行錯誤しながら行い、その報告が本社の安全衛生事務局に集まってくる仕組みだ。

また、業務改善活動の成果発表大会（カーゴカップ）を毎年開催し、安全・品質・生産性の改善事例の表彰を行うことで、組織全体で取り組みを共有している。

桶川流通センターにおける 安全衛生管理の取り組み

商品をトラックの荷台に積み込むプラットフォームでは、運行管理者とドライバーのコミュニケーションが取られている。第一事業本部 桶川流通センター 桶川輸送課第2グループ 主任の酒井守^{※2}さんは「ドライバーの様子に異変がないかを確認したり、直近の事故



乗務前の点呼の様子。一方通行の指示ではなく、相互のコミュニケーションをしっかりとることが大事。



エントランスや、事務所の出入り口にはサーマルカメラを配置している。

※1 作業場などを巡視し、設備、作業方法などに危険の恐れがあるときは、直ちにその危険を防止するための必要な措置を講じる者。

※2 労働環境の衛生的改善と疾病の予防処置などを担当し、事業場の衛生全般の管理をする者。



倉庫内で使用する道具入れ。安全性の高い段ボールカッターをセーフティーコードにつなげている。



事務所では、デスクごとに飛沫防止パネルを設けている。



プラットフォームでドライバーとコミュニケーションを取る第一事業本部 桶川流通センター 桶川輸送課第2グループ 主任の酒井 守さん(右)。

また、段ボールカッターやペンなどを落とさないように、伸縮性のあるセーフティーコードにつなぎ、身に付けている。コロナ禍で新たに始めた衛生対策としては、次のようなものがある。

まず建物の入り口には消毒液を置き、エントランスにはサーマルカメラを配置して検温を徹底。また、社員が働く事務所の出入り口にも、サーマルカメラ

さらに、商品をストックする在庫保管センターや、商品を振り分けるセツトセンターでも、日々の業務の中で、さまざまな安全に配慮した対策をしている。一例としては、段ボールを開ける際には、一般的なカッターを使うと刃が折れて異物が混入したり、商品を傷つけたりする可能性があるため、専用の段ボールカッターを使っている。また、

事例を共有したりしています。特に重視しているのは、ドライバー個々の困り事についての聞き取りや、気持ち良く運転できるように見送りをしてコミュニケーションを図ることで」と話す。



技術開発本部 運送事業部 運輸安全課 課長 上田幸雄さん



第一事業本部 桶川流通センター 桶川輸送課 課長 加藤一樹さん

さらに桶川流通センターでは、不測の事態に備えた取り組みも実施している。コロナ感染拡大を受けて、罹患者発生時の情報共有の流れや、手指を消毒する場所や方法を理解することを目的

「消毒訓練」を実施

「さらに桶川流通センターでは、不測の事態に備えた取り組みも実施している。コロナ感染拡大を受けて、罹患者発生時の情報共有の流れや、手指を消毒する場所や方法を理解することを目的

ラを複数設置。事務所内では、デスクの間に透明の飛沫防止パネルを設けている。

技術開発本部 運送事業部 運輸安全課 課長の上田幸雄さんは「トラック運行管理者は、ドライバーに対して乗務前と乗務後に点呼をすることが法令で定められています。ドライバーとの対面のコミュニケーションを通じて、睡眠は十分に取れているか、疲れはたまっていないか、運行中に異常はないかなどをチェックします。コロナ対策として、ドライバーと運行管理者の間には飛沫防止パネルを設けて、表情を確認しながらも、コロナ感染を防止する配慮をしています」と話す。

訓練をした第一事業本部 桶川流通センター 桶川輸送課 課長の加藤一樹さんは「予行演習を行ったことで、罹患者発生時の対応のイメージが湧き、不測の事態にも落ち着いて対応できると思います」と言う。

(株)シーエックスカーゴでは、コロナ感染防止対策をはじめとした安全衛生管理を徹底させながら、生協の日々の物流を支えている。

に、罹患者の発生を想定した訓練を行った。初めに罹患者に行動ルートや濃厚接触者について聞き取りを行い、その場から他の社員を移動させる。消毒作業者は、ゴーグルやカップ、手袋、マスクなど防護服を身に付け、罹患者の行動ルートの半径2メートルを基準に事務所や作業場、共有スペースの消毒を行っていた。



コロナ罹患者が発生した想定で実施した「消毒訓練」の様子。

(文 野口武)